

平成28年3月の大阪森林便り

合板供給量、2015年1割減 5年ぶり600万m³割れ

合板の国内生産と輸入を合わせた総供給量が2年連続で減少して2015年は565万m³となりました。前年比1割減りました。

新設住宅着工戸数の伸び悩みを背景に合板メーカーが生産を抑制したほか、マレーシアやインドネシアなどからの輸入も減りました。輸入量は前年比2割減りました。

(2016年2月2日 日本経済新聞記事から抜粋)

木材輸出額29%増 昨年 丸太、中国向け伸びる

木材の2015年の輸出額は229億円と、前年と比べて29%増えました。増加は3年連続、約30年ぶりの高水準。

丸太は94億円と36%増。中国向けは57億円と56%増加。合板は30億円と、2.2倍。大幅に増えたのはフィリピン向け。

(2016年2月3日 日本経済新聞記事から抜粋)

合板や集成材 一段高 住宅向け堅調で在庫減

木材の価格が一段高。国産針葉樹合板、集成材いずれも約1年ぶりの高値水準。

2015年の針葉樹合板の生産量は前年と比べて1%減りましたが、出荷量は7%増えました。12月末の在庫量は前年同月と比べて41%少なくなっています。12月の出荷量は3%増えました。

(2016年2月11日 日本経済新聞記事から抜粋)

集成平角9か月ぶり下落 欧州製の輸入増加

集成材の平角の価格が下落しています。前月と比べて2%安くなっています。値下がり9か月ぶり。割安な輸入材が増え、国産価格も押し下げられました。

プレカット工場の稼働率も低下。需要は2015年12月がピーク。その後は徐々に需要が鈍化しています。

(2016年2月24日 日本経済新聞記事から抜粋)



今月の木の話

樹の枝は南側に多いのか

一般に、平らな土地で1本だけ立った木の形は、完全ではありませんが左右でまずまずバランスの取れた形になっています。なぜなら、四方八方に枝を出すほうが、効率よく日光を吸収できるからです。

ところが、他の植物や木との間で日光を巡っての競争がある場合、木の形は様々に変化します。「明るいところに枝と葉を重点的に配置する」というルールに従って、木の形は変化します。

枝は日光を得やすい側に多く、日当たりが悪くて光合成の効率が悪い側では枯れ上がります。日光を得やすい側には「生き節」多くなるはずですが。

樹種が針葉樹であっても広葉樹であっても「明るいところに枝と葉が配置され、光合成の効率の悪い葉や枝は切り捨てられる」という基本的なルールは変わりません。

枝の出方と数は、東西南北の方角とは関係がありません。

(日刊木材新聞社発行「今さら人には聞けない木のはなし」より抜粋)

